

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
大正	4	1915	6	29	0	東京市原宿にて柳宗悦、兼子夫妻の第一子として生まれる
		6	1917		2	次弟・宗玄(むねもと)が生まれる
	10	1921	3		6	柳一家は東京市赤坂区へ移転する
	11	1922			7	三弟・宗法(むねのり)生まれるが、誕生後3日で亡くなる
	12	1923	9	1	8	関東大震災のため家屋の一部が破損
	13	1924	4		9	柳家、京都市上京区に転居、錦林小学校入学
	14	1925			10	柳宗悦、濱田庄司、河井寛次郎らと民藝運動を展開する
昭和	1	1926			11	柳宗悦『日本民藝美術館設立趣意書』を発表
	2	1927			12	四弟・宗民(むねたみ)が生まれる
	3	1928	4		13	京都府立第一中学校入学
	4	1929			14	柳家、京都市左京区へ転居
			4		14	宗悦、欧州滞在を経て渡米
	5	1930	2		15	母・兼子が渡米
	6	1931			16	柳宗悦が雑誌『工芸』を創刊、刊行から1年間の装幀を芹沢_介が手掛ける
	8	1933	3		18	京都府立第一中学校卒業
			5		18	東京市小石川区へ転居
	9	1934			19	川端画学校で一年間の浪人生活
	10	1935			20	柳家、東京市目黒区駒場に転居
						東京美術学校西洋画科入学
	11	1936			21	宗悦、東京・駒場の自邸隣りに木造瓦葺き二階建てで日本民藝館を開館
	14	1939			24	宗理、編集委員となり、『東京美術』(東京美術学校交友会)へ論文「現代美術に於ける無意識性に就て」を執筆
	15	1940	4		25	東京美術学校油画科卒業、卒業制作《勝利》
			5		25	商工省の外郭団体、社団法人日本輸出工芸連合会の囑託となる
			9	30	25	『輸出工芸』編集(～7号、1941年6月8日発行)
			10		25	ペリアンに随行し、各地出張
	16	1941	1		26	ペリアンに随行して、金沢来訪 石川県庁経済部長室で県内美術工芸品を、宮市大丸で大衆工芸品を参観し、工芸指導所会議室に展示された輸出工芸品百点について50名の工芸家を指導。「日本的なよさを活かし、近代化したものならば必ず外人の趣味にあふとします」31日午前11時3分の列車で赤倉へスキーに向かう
			3	30	26	シャルロット・ペリアンの企画展「選択・伝統・創造」[～4月6日、東京／大阪・高島屋]に協力する
	17	1942	4		27	輸出工芸連合会退職
			5		27	坂倉準三建築研究所研究員となる(～1945年)
	18	1943	8		28	陸軍報道部宣伝班員として、文化宣伝のためフィリピンに渡る(坂倉準三建築研究所所属のまま)
	20	1945			30	坂倉準三建築研究所を退職
	21	1946			31	柳宗理インダストリアルデザイン研究所設立
			5		31	捕虜から解放されて帰国
	22	1947	4		32	文化学院文学部及び美術部講師
	23	1948			33	白い硬質陶器のシリーズを発表(ティーポット、キャセロール、水差し等最初のテーブルウェアのデザイン)

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
昭和	23	1948	4		33	柳工業デザイン研究会設立
	24	1949	1	13	34	第一回産業意匠展〔～23日、高島屋〕に《コーヒーセット》を出品し、優秀賞を受賞
	25	1950			35	駒場の自宅傍にアトリエを構え、柳インダストリアルデザイン研究所を開設
	27	1952	2		37	工業意匠研究会第2回意匠研究会〔工芸指導所資料展示室〕大泉博一郎、佐々木達三、鈴木富久治、柳宗理、小杉二郎、渡辺力、金子徳次郎、東芝の黒瀬英雄、三菱電機の伊東祐義、日本コロムビアの中曽根一夫、所内から剣持意匠部長ほか20数名、JIDA発起人会を組織
				15		
				22		第一回JIDA発起人会〔商工会館〕淡島雅吉、伊東祐義、大泉博一郎、金子至、金子徳次郎、黒瀬秀雄、小杉二郎、鈴木富久治、寺島祥三郎、服部茂夫、柳宗理、中曽根一夫、渡辺力 準備事務局を金子室内設計事務所に
	7				37	日本インダストリアル・デザイナー協会JIDA発会〔産業工芸試験所講堂〕山崎幸雄、勝見勝、猪熊弦一郎、鈴木三男、斎藤豊人、松崎福三郎、豊口克平、藤井左内を招き方針協議、発起人明石一男、淡島雅吉、伊藤祐義、大泉博一郎、金子徳三郎、金子至、黒瀬英雄、剣持勇、小杉二郎、佐々木達三（理事長）、島田重義、白石浩二、新庄晃、鈴木富久治、鈴木道次、鈴木太郎、知久篤、寺島祥五郎、中井太一郎、中曽根一夫、服部茂夫、柳宗理、山口勇次郎、芳武茂介、渡辺力
				11		JIDA発起人（明石一男、淡島雅吉、伊藤祐義、大泉博一郎、金子徳次郎、金子至、黒瀬英雄、剣持勇、小杉二郎、佐々木達三、島田重義、白石浩二、新庄晃、鈴木富久治、鈴木道次、鈴木太郎、知久篤、寺島祥五郎、中井太一郎、中曽根一夫、服部茂夫、柳宗理、山口勇次郎、芳武茂介、渡辺力）会が山崎幸雄、勝見勝、猪熊弦一郎、鈴木三男、斎藤豊人、松崎福三郎、豊口克平、藤井左内を招き懇談〔産業工芸試験所講堂〕理事長に佐々木達三選出、9月中旬に改めて対外的に発足
	8				37	日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）設立に参加
				15		第1回新日本工業デザイン審査結果発表 最優秀賞柳宗理「コロムビア電蓄キャビネット」、通商産業大臣賞と賞金100万円 参加商社12、応募総数798（うち模型12点）
	10			10	37	工業意匠振興講演会〔神奈川県庁会議室〕神奈川県貿易課主催、小池新二、柳宗理の講演
				20		日本インダストリアル・デザイナー協会創立総会〔東京商工会議所第一会議室〕出席会員21名 会長加納久朗、理事長佐々木達三、理事明石一男、大泉博一郎、金子徳次郎、剣持勇、小杉二郎、鈴木富久治、鈴木道次、柳宗理、渡辺力、監事伊東祐義、金子至 顧問小池新二、勝見勝、会員25名 発会披露宴〔東京商工会議所〕130名出席 事務所文化振興会〔中央区京橋1-2〕
	28	1953			38	名古屋市立工芸高校にて特別講義
				5	38	日本インダストリアル・デザイナー協会定期総会、理事長佐々木達三、理事明石一男、大泉博一郎、剣持勇、小杉二郎、鈴木富久治、柳宗理、渡辺力、豊口克平、亀倉雄策、監事：金子至、新庄晃、顧問小池新二、松崎福三郎、勝見勝 会員36名
				7	38	第2回新工業デザイン展〔～19日、日本橋三越〕主催毎日新聞社、英文毎日、後援通産省、産業工芸試験所 入選柳宗理《電蓄キャビネット》、中鉢孝二《ラジオキャビネット》 巡回：大阪〔8月17日～27日；高麗橋三越〕
				8	38	プラスチック振興展に《メラミン製水栓ノブ》を出品、工業奨励館賞を受賞
				10	38	柳工業デザイン研究会、文部省より財団法人認可
	29	1954			39	前川國男と親交を深め、東京・四谷にある前川の事務所の新築にあたり、柳工業デザイン研究会をその半地下へ移転
						国際デザイン協会（のち日本デザインコミティー）設立に参加（～1980年）
				4	39	女子美術大学非常勤講師に就任（～1968年）「現代造型理論」
				6	39	国際デザイン協議会代表に就任
	30	1955	4	1	40	「巴里一九五五年芸術への総合展 ル・コルビジエ、フェルナン・レジェ、シャルロット・ペリアン三人展」〔～10日、東京高島屋〕
				6	40	H55展に《やかん》、《盆》、《碗》が選出展示

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
昭和	30	1955	6	22	40	大智浩、柳宗理、大隈為三講演〔金沢美術工芸大学第一普通教室〕
			10	20	40	ベリアンが三度目の来日、パリからマルタ・ウィリガーを呼び寄せ、日本での展覧会準備
	31	1956			41	第一回柳工業デザイン研究会個展〔銀座松屋〕を開催
			2		41	最新工業意匠講座〔～10日、東京商工会議所講堂〕主催日本インダストリアル・デザイナー協会、協力東京商工会議所。定員100名、講師豊口克平あいさつ、伊東祐義「販売政策とデザイン」、明石一男「インダストリアル・デザインの頼み方」、富谷龍一「エンジニアとデザイナー」、剣持勇「よいデザインと売れる商品」、黒瀬英雄・皆川正「照明器具類のデザイン」、真野善一「電気器具類のデザイン」、小杉二郎「機械器具類のデザイン」、淡島雅吉「ガラスおよび陶磁器のデザイン」、柳宗理「食器と厨房器具類のデザイン」、佐々木達三「プラスチック製品のデザイン」、亀倉雄策「容器、包装、宣伝とデザイン」、豊口克平「椅子のデザインの基礎」、鈴木富久治「量産家具のデザイン」、大泉博一郎「船舶、車両の家具デザイン」、寺島祥五郎「色彩デザイン」来場150名
			4	1	41	金沢美術工芸大学嘱託教授(非常勤)(～1965年3月)
				17		第2回産業デザイン講習会〔～18日、名古屋商工会議所〕挨拶斎藤信治、豊口克平、真野善一「電気器具のデザイン」、柳宗理「食器類および厨房器具のデザイン」、佐々木達三「プラスチック製品とデザイン」、安田彦二郎「陶磁器のデザインの実際」、松本政雄「中部地区のデザイン」理論的よりも実際的な問題を中心に講演
			6	1	41	柳宗理工業デザイン展〔～12日、銀座松屋〕スプーン、物差し、バタフライスツール、三輪トラックに試作品ほか
				26		第1回工業デザイン・アメリカ視察団羽田空港を出発(～6週間)主催日本生産性本部、団長小池新二、副団長豊口克平、参加松本政雄、佐々木達三、平賀潤二、我妻栄、鈴木富久治、渡辺力、淡島雅吉、柳宗理、三輪智一、真野善一 渡辺は訪米後、ロンドン・デザイン会議出席、ヨーロッパ歴訪後、帰国
				27		第6回アスペン国際デザイン会議で講演
				27		国際アスペンデザイン会議に招かれ、講演
			10	11	41	第2回ミラノトリエンナーレ展実行委員会〔外務省〕に出席、トリエンナーレ議長フェラリスの伝言を伝える
			11	14	41	三井精機工業三輪車オリエント号完成発表会〔～20日、ブリヂストンビル1階ショールーム〕
				26		工業デザイン専門視察団帰朝報告会〔電機会館〕共催JIDA、日宣美、デザイナークラブトマン協会、国際工芸美術協会、講演小池新二「アメリカの工業デザインを見て」、平賀潤二「市場と工業デザイン」、豊口克平「アメリカ市場と輸出雑貨の新分野」、柳宗理「新しい工業デザインの技術およびアスペン会議の報告」
	32	1957	2	22	42	特許庁、意匠奨励審議会(委員長特許庁長官、委員伊藤俊夫、勝見勝、小池新二、坂倉順三、佐々木達三、柳宗理ら15名)を設置
				7	42	第11回ミラノ・トリエンナーレ〔～11月4日〕河井寛次郎《偏壺》がグランプリ、鈴木表朔《湯筒》、渡辺力「スツールQS-1」が金賞、丸和商店《土びん》、柳宗理がインダストリアル・デザイン銀賞、坂倉準三がトリエンナーレ展会場構成で銀賞を受賞
	33	1958			43	バタフライ・スツールがニューヨーク近代美術館パーマネントコレクションに選定
			11	28	43	日本橋白木屋にゴールデン・デザイン・ルーム開設(40坪)、Japan Design Round-tableによる商品選択ディスプレイ柳宗理
				28		柳宗理ニュー・デザイン陶器展〔～12月20日、銀座松屋〕ポット、ミルク入れ、カップ、皿など白陶の作品展示、醤油さし改良型と機能実験結果も展示
	35	1960	2	13	45	世界デザイン会議企画分科会副委員長に任命
				5	45	世界デザイン会議(～16日、東京)
				6	45	英国展〔～12日、日本橋白木屋〕CoID、リパティ、ウーランズ百貨店と協力して生活用品類を展示、日本から柳宗理が渡英して作品選定
			10	3	45	カッセル国立デザイン専門学校講師(～61年2月28日)

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
昭和	35	1960	10	5	45	ドイツに向け、日本出国(～1961年7月1日帰国)
				5		アラスカ、アンカレッジ通過
				5		羽田より出国
			11	3	45	バーゼル(スイス)
				4		CHIASSO(スイス)
36	1961	2	15		46	「作品と教育」展[～25日、カッセル]
		3	11		46	「Japan Form」展[～4月16日、カッセル・ベルビュー宮殿]柳宗理企画
				28		ボン日本大使館でオーストリア、ユーゴスラヴィア、ギリシャ、トルコ、スペイン、アメリカ合衆国、メキシコ経由のヴィザ取得
		4	22		46	ドイツ民主共和国ヴィザ(～30日)取得
				27		カッセル市滞在許可(～6月20日)
		5	1		46	ユーゴスラヴィア大使館ヴィザ取得(～8月10日)
				3		柳宗悦、脳溢血により死去
				15		メキシコ大使館ヴィザ(～8月14日)取得
		6	20		46	スタンプ不詳
				21		アメリカ大使館ヴィザ取得(1961年5月9日～1965年5月9日)
		7	1		46	柳宗理、羽田に帰国
				8	46	夏、島根県・出西窯へ父の骨壺を作りに赴く(8月は推定、真夏であったとの多々納証言)
39	1964				49	東京オリンピックのデザインポリシーに参加
			3	3	49	第一回日本デザイン学生会議において記念講演[京都会館]現代デザインの歪められている点を徹底的に追及しゆくことから、これからのデザイナーのあり方
			6	27	49	第3回ドクメンタ[～10月5日、カッセル]に招待出品「灰皿」(松村、1953)、「スツール」(天童、1956)、「黒釉ティーポット」(安藤、1956)
			11	17	49	講演「今日の産業デザインについて」[愛知県産業貿易館第二教室]
40	1965	10			50	第20回デザインギャラリー展「アノニマスデザイン展」[東京・銀座松屋]企画、展示デザインを手がける
41	1966				51	国際デザイン会議(フィンランド・イパスキラ)に日本代表として出席
42	1967	3			52	金沢美術大学教授を退任
			11	10	52	日本デザインコミッティー主催「German Design To-day」展[～15日、銀座松屋]を勝見勝とともに企画担当、カッセル国立デザイン専門学校も紹介
43	1968	9			53	第52回デザインギャラリー展「柳宗理 歩道橋計画案展」[銀座松屋]開催
45	1970				55	横浜野毛山動物園と遊園地の案内板、野毛山公園の斜張橋の歩道橋をデザインする
47	1972				57	国際ペンクラブ会議(京都)において「デザインと日本の伝統」講演
48	1973				58	「国際クラフト展」[カナダ]審査委員を務める
50	1975				60	「シンポジウム20世紀の様式」にて講演(京都)
				10	60	「柳宗理のデザイン展」[銀座・松屋]
52	1977	12			62	日本民藝館館長に就任(～2006年8月)
53	1978				63	ローマ・アカデミア・ティベリアーナの称号を受ける
51				1	63	日本民藝協会会長に就任(～2003年7月)
55	1980	6			65	イタリア人デザイナー、アンジェロ・マンジャロッチェと柳との交換展としてミラノ市近代美術館にて「デザイナー・柳宗理・1950年-1980年の作品」展が開催

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
昭和	56	1981			66	紫綬褒章受章
	58	1983			68	ボンベイ工科大学デザインセンターに招聘
			6	11	68	「柳宗理デザイン展」〔～24日、イタリア文化会館ホール〕主催:イタリア文化会館
				29		『デザイン 柳宗理の作品と考え』(用美社)刊行
	59	1984	6		69	母・兼子死去
				8	69	『民藝』巻頭に「新しい工芸 生きている工芸」の連載(～1988年8月)
	60	1985			70	関越自動車道、関越トンネル抗口デザイン(日本道路公団)を手掛ける
	61	1986			71	世界クラフト会議(カナダ)で講演
	62	1987			72	旭日小綬章受賞
	63	1988	4		73	藤田光一(1988金美工業デザイン専攻卒)、入所
				8	73	「柳宗理デザイン」展〔東京・有楽町西武クリエイターズギャラリー〕開催
	64	1989			74	横浜市桜木町大岡川人道橋デザインを手がける
平成	2	1990	9		75	JCと柳デザイン作品復刻の契約
			10	27	75	第6回北陸伝統産業学会研究発表大会記念講演「民芸と伝統産業とデザイン」〔金沢美術工芸大学〕
	3	1991			76	東名高速道路・足柄橋(日本道路公団)
	4	1992			77	東武百貨店デザイン・トゥデイ・インターナショナル・コミッティのメンバーとなる
						国井喜太郎産業工芸賞/柳宗理「創成期よりデザイン活動を実践、日本民芸館を通じて文化交流に尽力」、中川千年「40数年にわたり各地の地場産業の振興に尽くした功績」、川上元美「近代家具生産に工芸の造形性と手法を導入するなど、わが国家具デザインの水準を世界的に高めた功績」
						沖縄県立芸術大学美術工芸楽部非常勤講師
	5	1993			78	日本民藝展〔ローマ日本文化会館〕ディスプレイを手掛ける
	6	1994	9	25	79	「Japanese Design」展〔～11月20日、フィラデルフィア美術館〕にバタフライ・スツール他9点出品
	7	1995	3	28	80	東京湾横断道路・木更津料金所のデザインを行なう
	8	1996	4	1	81	沖縄県立芸術大学客員教授(～97年3月31日)
	9	1997	7	5	82	トークセッション「デザイナーは生涯現役だ」〔新宿・リビングデザインセンターOZONE〕長大作、渡辺力、柳宗理による
	10	1998	4	18	83	「柳宗理のデザイン—戦後デザインのバイオニア」展〔～6月1日、池袋・セゾン美術館〕
	11	1999	10		84	「柳宗理 椅子のコレクション展」〔東京・ギャラリーサカ〕
	12	2000	4	1	85	金沢美術工芸大学客員教授(～2011年12月25日)
				6	85	「柳宗理 生活の中のデザイン」展〔東京・リビングデザインギャラリー〕開催
	13	2001	10	20	86	「柳宗理の眼と手」展〔～12月2日、鳥取民藝美術館〕
	14	2002	1		87	沖縄県立芸術大学美術工芸楽部非常勤講師
				11	87	文化功労者に選定
	15	2003	1		88	柳宗理デザイン展〔東京・mono gallery〕
			4	12	88	「仙台デザインワーク」〔～29日、せんだいメディアテークほか〕「柳宗理デザインとプロダクション」展ほか
	14		6		88	「柳宗理展」〔浜松・静岡文化芸術大学〕
	15		6	19	88	「Yanagi Catalogue 2003 柳宗理さんのデザインを使ってみませんか?」展〔～7月15日、リビングデザインセンターOZONE〕現在でも購入可能な日用品を一堂に展示

柳宗理年譜

元号	年	西暦	月	日	歳	事項
平成	15	2003	6	29	88	『柳宗理 エッセイ』出版(平凡社)
			8	10	88	「柳宗理 うまれるかたち」展〔～30日、金沢市民芸術村〕柳宗理デザイン金沢展実行委員会主催
	16	2004			89	「出西窯ディレクションシリーズ」発売
	18	2006			91	「柳宗理 デザイン 生活道具」展〔熊本国際民芸館〕
	19	2007			92	「出西窯と柳宗理～黒土瓶の仕事めぐって」展〔ギャラリーTOM〕
			1	19	92	「柳宗理展—生活の中のデザイン」展〔～3月4日、東京国立近代美術館〕
	20	2008			93	英国王立芸術協会よりロイヤルデザイナー・フォー・インダストリー (Hon RDI) の称号を授与
						紋次郎スツール・ティーテーブルを飛騨産業より復刻
	12	2010	1		95	沖縄県立芸術大学美術工芸学部非常勤講師(～3月)
	23	2011	12	25	96	逝去、正四位旭日重光章授与
	26	2014	9	9	99	「柳宗理のみてきたもの」展〔～11月30日、豊田市民芸館〕